

令和4年度 救急救命学科

SYLLABUS

国際医療福祉専門学校一関校

分野	基礎	担当教員	菅原 邦久		
実務経験のある教員の経験内容					
教育目標	人間性を磨き、自由で客観的な判断力を培い、主体的な行動力を身につける。				
科目名	時事・国際関係学		履修学年	1年	
細科目			授業方法	講義	
授業単位	1単位	授業時間	30時間（15コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
医療従事者として必要とされる社会対応能力やグローバル感覚を習得する。また、将来の就職試験や採用試験に対応する一般知識や常識を学び問題解決能力の向上を図る。					
授業の概要					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 政治学（民主主義、三権分立、憲法、人権等） 2. 経済学（歴史、理論、構造、価格、金融政策、貿易等） 3. 人文学（西洋哲学、思想哲学、労働関係等） 4. 日本史 5. 世界史 6. 地理 					
使用テキスト等	教員配布のプリント				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、筆記試験				

分野	基礎	担当教員	菅原 邦久		
実務経験のある教員の経験内容					
教育目標	人間性を磨き、柔軟で客観的な判断力を培い、主体的な行動力を身につける。				
科目名	文学		履修学年	1年	
細科目			授業方法	講義	
授業単位	1単位	授業時間	30時間(15コマ)	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
人間性を磨き、柔軟で客観的な判断力を培い、主体的な行動力を身につける。文学的素養を高め、医療人としての心の大切さを考える。					
授業の概要					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の文学と歴史について 2. 読解の基礎 3. 語彙の理解 4. 古文や漢文の基礎的読解 5. 近現代の文芸思潮 6. 実践的問題の習練 					
使用テキスト等	教員配布のプリント				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、筆記試験				

分野	基礎	担当教員	鈴木 俊行		
実務経験のある教員の経験内容					
教育目標	人間性を磨き、柔軟で客観的な判断力を培い、主体的な行動力を身につける。				
科目名	英語		履修学年	1年	
細科目			授業方法	講義	
授業単位	1単位	授業時間	30時間（15コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
国際化社会に対応するべく語学力の習熟を図る。また、医療面においても専門用語を理解する上で欠かすことのできないものであり、救命にかかわる興味を抱き役に立つ英語学習を目指す。					
授業の概要					
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 単語力、熟語力 3. 構文力、文型の確認 4. 長文読解のコツ（代名詞の名詞化等） 5. 米英の風習、挨拶用例（SF鑑賞） 6. 身体部位の英語 7. 英文漫画の台詞の分析 8. 映画主題歌の歌詞の分析 等 					
使用テキスト等	・担当教員により配布されるプリント				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、筆記試験				

分野	基礎	担当教員	佐藤 修		
実務経験のある教員の経験内容		救急救命士（栗原地域広域行政事務組合消防本部、栗原市消防本部）			
教育目標	人間性を磨き、柔軟で客観的な判断力を培い、主体的な行動力を身につける。				
科目名	体育		履修学年	1年	
細科目			授業方法	講義	
授業単位	1単位	授業時間	30時間（15コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
各種実習や就職試験に対応するため、自身の生理機能や運動能力の再確認をする。 それを踏まえた上で体力増進、育成することを目標とする。					
授業の概要					
<p>1. 筋力トレーニング 2. バスケットボール 3. バレーボール 4. フットサル ほか、レクリエーション</p>					
使用テキスト等	なし				
評価の方法	出席状況・授業態度を勘案する				

分野	専門基礎	担当教員	佐藤 武諭毅		
実務経験のある教員の経験内容		救急救命士（佐藤レスキュープラン）			
教育目標	人体の構造と機能及び心身の発達に関する知識を系統的に習得する。				
科目名	解剖生理学		履修学年	1年	
細科目			授業方法	講義	
授業単位	4単位	授業時間	90時間（45コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
<p>救急救命士として観察や処置を実施する上で必要な正式解剖名称を学ぶ。 また、正常時における各臓器の生理学的機能についても知識を深め、疾病時との判別ができる知識を取得する。</p>					
授業の概要					
<p>1. 人体を構成する要素 P56～62 2. 体表からみる人体の構造 P63～76 3. 神経系 P77～90 4. 感覚系 P92～96 5. 呼吸系 P97～107 6. 循環系 P108～118 7. 消化系 P119～128 8. 泌尿系 P129～131 9. 生殖系 P132～136 10. 内分泌系 P139～142 11. 血液・免疫系 P143～149 12. 筋・骨格系 P151～159 13. 皮膚系 P155～158 14. 生命の維持 P159～162</p>					
使用テキスト等	救急救命士標準テキスト 第10版 からだの地図帳 人体の仕組みと働き				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、筆記試験				

分野	専門基礎	担当教員	千葉 卓修		
実務経験のある教員の経験内容		医師			
教育目標	疾病及び障害に関する知識を系統的に習得する。				
科目名	法医学・病理学		履修学年	1年	
細科目			授業方法	講義	
授業単位	4単位	授業時間	60時間(30コマ)	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
解剖生理学で学んだ知識を基に、老化や疾病時の身体的特徴の知識を深め、判別出来るようにする。					
授業の概要					
<ul style="list-style-type: none"> 1. 疾患 P164～169 2. 細胞障害 P170～173 3. 炎症 P174～176 4. 感染 P177～180 5. 循環障害 P181～185 6. 腫瘍 P186～190 7. 損傷と治癒 P191～193 8. 死 P194～197 					
使用テキスト等	救急救命士標準テキスト 第10版 プリント 他				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、筆記試験				

分野	専門	担当教員	中里 重高		
実務経験のある教員の経験内容		救急救命士（両磐地区消防組合消防本部、一関市消防本部）			
教育目標	生命倫理と医の倫理（インフォームドコンセントを含む）の基本的考え方を理解する。 地域における救急救命士の役割を理解し、メディカルコントロール体制化における救急現場、搬送課程における救急医療及び災害医療についての知識を系統的に習得する。 また、救急救命処置に係る医療事故対策について理解する。				
科目名	観察		履修学年	1年	
細科目			授業方法	講義	
授業単位	1単位	授業時間	30時間（15コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
救急救命士として傷病者を観察する上で、観察方法や観察に関係する医学的用語を理解する。 また、観察結果からどのように傷病者状態を判断すべきかも学び、最終的には適切な病院選定へと結び付けられる知識を取得する。					
授業の概要					
<p>1. 観察総論 P300～303</p> <p>2. 全身状態の観察 P304～311</p> <p>3. 局所の観察 P312～321</p> <p>4. 神経所見の観察 P322～326</p> <p>5. 緊急度・重症度判断 P327～328</p> <p>6. 資器材による観察 P332～343</p>					
使用テキスト等	救急救命士標準テキスト 第10版 救急処置スキルブック 上巻・下巻				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、筆記試験				

分野	専門	担当教員	中里 重高																										
実務経験のある教員の経験内容		救急救命士（両警地区消防組合消防本部、一関市消防本部）																											
教育目標	生命倫理と医の倫理（インフォームドコンセントを含む）の基本的考え方を理解する。 地域における救急救命士の役割を理解し、メディカルコントロール体制化における救急現場、搬送課程における救急医療及び災害医療についての知識を系統的に習得する。 また、救急救命処置に係る医療事故対策について理解する。																												
科目名	救急医学概論		履修学年	1年																									
細科目			授業方法	講義																									
授業単位	1単位	授業時間	30時間（15コマ）	時間(分)／回	90分																								
授業のねらい																													
我が国における救急救命士の位置づけや業務内容を中心に、病院システムや災害医療体制についても知識を深める。また、救急救命士として傷病者に接遇する上で、どのように生命を尊重すべきかも学ぶ。																													
授業の概要																													
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 40%;">1. 人間と人間生活</td> <td style="width: 20%;">P4～7</td> </tr> <tr> <td>2. 科学的思考の基礎</td> <td>P8～11</td> </tr> <tr> <td>3. 生命倫理と医の倫理</td> <td>P12～17</td> </tr> <tr> <td>4. 救急医療体制</td> <td>P218～231</td> </tr> <tr> <td>5. 災害医療体制</td> <td>P232～244</td> </tr> <tr> <td>6. 消防機関における救急活動の流れ</td> <td>P245～252</td> </tr> <tr> <td>7. 消防活動時のコミュニケーション</td> <td>P253～259</td> </tr> <tr> <td>8. 救急救命士に関する法令</td> <td>P260～270</td> </tr> <tr> <td>9. 救急救命士の生涯教育</td> <td>P271～275</td> </tr> <tr> <td>10. 安全管理と事故対応</td> <td>P276～281</td> </tr> <tr> <td>11. 感染対策</td> <td>P281～293</td> </tr> <tr> <td>12. ストレスに対するマネージメント</td> <td>P294～297</td> </tr> </table>						1. 人間と人間生活	P4～7	2. 科学的思考の基礎	P8～11	3. 生命倫理と医の倫理	P12～17	4. 救急医療体制	P218～231	5. 災害医療体制	P232～244	6. 消防機関における救急活動の流れ	P245～252	7. 消防活動時のコミュニケーション	P253～259	8. 救急救命士に関する法令	P260～270	9. 救急救命士の生涯教育	P271～275	10. 安全管理と事故対応	P276～281	11. 感染対策	P281～293	12. ストレスに対するマネージメント	P294～297
1. 人間と人間生活	P4～7																												
2. 科学的思考の基礎	P8～11																												
3. 生命倫理と医の倫理	P12～17																												
4. 救急医療体制	P218～231																												
5. 災害医療体制	P232～244																												
6. 消防機関における救急活動の流れ	P245～252																												
7. 消防活動時のコミュニケーション	P253～259																												
8. 救急救命士に関する法令	P260～270																												
9. 救急救命士の生涯教育	P271～275																												
10. 安全管理と事故対応	P276～281																												
11. 感染対策	P281～293																												
12. ストレスに対するマネージメント	P294～297																												
使用テキスト等	救急救命士標準テキスト 第10版 プリント 他																												
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、筆記試験																												

分野	専門	担当教員	岸田 全人		
実務経験のある教員の経験内容		救急救命士（埼玉医科大学国際医療センター）			
教育目標	<p>生命倫理と医の倫理（インフォームドコンセントを含む）の基本的考え方を理解する。 地域における救急救命士の役割を理解し、メディカルコントロール体制化における救急現場、搬送課程における救急医療及び災害医療についての知識を系統的に習得する。 また、救急救命処置に係る医療事故対策について理解する。</p>				
科目名	救急処置概論 I		履修学年	1年	
細科目			授業方法	講義	
授業単位	1単位	授業時間	30時間（15コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
<p>救急隊及び救急救命士が現場で実施可能な救急救命処置を理解する。また、これらの救急救命処置をの対象傷病者や処置効果についての知識を取得する。</p>					
授業の概要					
<p>1. 救急救命士が行う処置 P344 ~418 2. 救急蘇生法 P419 ~427 3. 在宅療法継続中の傷病者の処置 P429~434 4. 傷病者搬送 P436 ~449</p>					
使用テキスト等	<p>救急救命士標準テキスト 第10版 プリント 他</p>				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、筆記試験				

分野	専門	担当教員	岸田 全人		
実務経験のある教員の経験内容		救急救命士（埼玉医科大学国際医療センター）			
教育目標	生命倫理と医の倫理（インフォームドコンセントを含む）の基本的考え方を理解する。 地域における救急救命士の役割を理解し、メディカルコントロール体制化における救急現場、搬送課程における救急医療及び災害医療についての知識を系統的に習得する。 また、救急救命処置に係る医療事故対策について理解する。				
科目名	救急処置概論Ⅱ		履修学年	1年	
細科目			授業方法	講義	
授業単位	1単位	授業時間	30時間（15コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
救急隊及び救急救命士が現場で実施可能な救急救命処置を理解する。また、これらの救急救命処置をの対象傷病者や処置効果についての知識を取得する。					
授業の概要					
<p>F. 気管挿管 P358～367</p> <p>G. 気管吸引 P367～368</p> <p>M. 静脈路確保と輸液 P383～388</p> <p>N. アドレナリン投与 P388～391</p> <p>O. ブドウ糖の投与 P392～394</p>					
使用テキスト等	救急救命士標準テキスト 第10版 プリント 他				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、筆記試験				

分野	専門	担当教員	中里重高		
実務経験のある教員の経験内容		救急救命士（両磐地区消防組合消防本部、一関市消防本部）			
教育目標	生命倫理と医の倫理（インフォームドコンセントを含む）の基本的考え方を理解する。 地域における救急救命士の役割を理解し、メディカルコントロール体制化における救急現場、搬送課程における救急医療及び災害医療についての知識を系統的に習得する。				
科目名	薬理学		履修学年	1年	
細科目			授業方法	講義	
授業単位	1単位	授業時間	30時間（15コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
救急救命士が使用可能な乳酸リンゲル液とアドレナリン（静脈注射、筋肉内注射）の薬効を中心に、病院で使用されている薬剤や輸液剤についての知識を深める。					
授業の概要					
<p>1. 医薬品の基礎 P200～204</p> <p>2. 重要な医薬品 P205～210</p>					
使用テキスト等	救急救命士標準テキスト 第10版 看護に役立つ検査辞典 薬がみえる				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、筆記試験				

分野	専門	担当教員	佐藤 修		
実務経験のある教員の経験内容		救急救命士（栗原地域広域行政事務組合消防本部、栗原市消防本部）			
教育目標	各種疾患の症候・病態生理について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
科目名	救急症候学 I		履修学年	1年	
細科目			授業方法	講義	
授業単位	1単位	授業時間	30時間（15コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
<p>救急疾患で多い、心肺停止、ショックと大量出血に関する発生原因や病態を基に、現場でどのような観察方法や処置に結び付けるかの知識を深める。</p> <p>また、心肺停止は救急蘇生法ガイドラインの意味やプロトコールについても学び、現場活動に結び付けられる知識を深める。</p>					
授業の概要					
<p>1. ショック P463～469</p> <p>2. 重症脳障害 P470～476</p> <p>3. 心肺停止 P477～485</p>					
使用テキスト等	救急救命士標準テキスト 第10版 プリント 他				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、筆記試験				

分野	専門	担当教員	佐藤 修		
実務経験のある教員の経験内容		救急救命士（栗原地域広域行政事務組合消防本部、栗原市消防本部）			
教育目標	各種疾患の症候・病態生理について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
科目名	救急症候学Ⅱ		履修学年	1年	
細科目			授業方法	講義	
授業単位	2単位	授業時間	30時間（15コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
頭蓋内疾患に関する各症候の発生原因や傷病者所見を基に、現場での観察方法、重症度・緊急度判断や、どんな処置をすべきかの知識を深める。					
授業の概要					
<p>1. 意識障害 P488～491 2. 頭痛 P492～496 3. 痙攣 P497～502 4. 運動麻痺 P503～506 5. めまい P507～510</p>					
使用テキスト等	救急救命士標準テキスト 第10版 プリント 他				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、筆記試験				

分野	専門	担当教員	佐藤 修		
実務経験のある教員の経験内容		救急救命士（栗原地域広域行政事務組合消防本部、栗原市消防本部）			
教育目標	各種疾患の症候・病態生理について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
科目名	救急症候学Ⅲ		履修学年	1年	
細科目			授業方法	講義	
授業単位	2単位	授業時間	30時間（15コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
呼吸器及び循環器疾患に関係する各症候の発生原因や傷病者所見を基に、現場での観察方法、重症度・緊急度判断や、どんな処置をすべきかの知識を深める。					
授業の概要					
<p>1. 呼吸困難 P511～515</p> <p>2. 喀血 P516～521</p> <p>3. 一過性意識消失と失神 P519～521</p> <p>4. 胸痛 P522～525</p>					
使用テキスト等	救急救命士標準テキスト 第10版 病気がみえる循環器 第3版 プリント 他				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、筆記試験				

分野	専門	担当教員	佐藤 修		
実務経験のある教員の経験内容		救急救命士（栗原地域広域行政事務組合消防本部、栗原市消防本部）			
教育目標	各種疾患の症候・病態生理について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
科目名	救急症候学Ⅳ		履修学年	1年	
細科目			授業方法	講義	
授業単位	1単位	授業時間	30時間（15コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
腹部疾患に関係する各症候の発生原因や傷病者所見を基に、現場での観察方法、重症度・緊急度判断や、どんな処置をすべきかの知識を深める。					
授業の概要					
<p>10. 動悸 P526～528 11. 腹痛 P529～533 12. 下血・吐血 P534～536</p>					
使用テキスト等	救急救命士標準テキスト 第10版 病気がみえる消化器 第3版 プリント 他				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、筆記試験				

分野	専門	担当教員	佐藤 修		
実務経験のある教員の経験内容		救急救命士（栗原地域広域行政事務組合消防本部、栗原市消防本部）			
教育目標	各種疾患の症候・病態生理について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
科目名	救急症候学Ⅴ		履修学年	1年	
細科目			授業方法	講義	
授業単位	1単位	授業時間	30時間（15コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
各症候における発生原因や傷病者所見を基に、現場での観察方法、重症度・緊急度判断やどんな処置をすべきかの知識を深める。					
授業の概要					
<p>13. 腰痛・背部痛 P537～539</p> <p>14. 体温上昇 P540～544</p>					
使用テキスト等	救急救命士標準テキスト 第10版 プリント 他				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、筆記試験				

分野	専門	担当教員	菅原智道		
実務経験のある教員の経験内容		救急救命士（一関市消防本部）			
教育目標	各種疾患の症候・病態生理について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
科目名	救急症候学Ⅵ		履修学年	1年	
細科目			授業方法	講義	
授業単位	1単位	授業時間	30時間(15コマ)	時間(分)／回	90分
各症候における発生原因や傷病者所見を基に、現場での観察方法、重症度・緊急度判断やどんな処置をすべきかの知識を深める。					
授業の概要					
<p>1. 血糖測定器 P341～343 2. 静脈路確保と輸液 P383～394</p>					
使用テキスト等	救急救命士標準テキスト 第10版 救急現場活動シリーズ特定行為				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、筆記試験				

分野	専門	担当教員	佐藤 武諭毅		
実務経験のある教員の経験内容		救急救命士（佐藤レスキュープラン）			
教育目標	各種疾患（小児、高齢者、妊産婦等を含む）の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
科目名	疾病救急 I		履修学年	1年	
細科目			授業方法	講義	
授業単位	2単位	授業時間	60時間（30コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
救急疾患で主要な内因性疾病に関する詳細な病態生理の知識を深め、症状から多様な疾病が考えられることを理解する。また、病態生理を基に適した観察方法、処置や重症度・緊急度判断の知識を身に着ける。					
授業の概要					
<p>1. 呼吸系疾患 P558～566</p> <p>2. 循環系疾患 P567～586</p>					
使用テキスト等	救急救命士標準テキスト 第10版 病気がみえる呼吸器 第3版 プリント 他				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、筆記試験				

分野	専門	担当教員	佐藤 武諭毅		
実務経験のある教員の経験内容		救急救命士（佐藤レスキュープラン）			
教育目標	各種疾患（小児、高齢者、妊産婦等を含む）の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
科目名	疾病救急Ⅱ		履修学年	1年	
細科目			授業方法	講義	
授業単位	2単位	授業時間	60時間（30コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
救急疾患で主要な内因性疾病に関する詳細な病態生理の知識を深め、症状から多様な疾病が考えられることを理解する。また、病態生理を基に適した観察方法、処置や重症度・緊急度判断の知識を身に着ける。					
授業の概要					
<p>1. 神経系疾患 P546～556 2. 消化系疾患 P587～596</p>					
使用テキスト等	救急救命士標準テキスト 第10版 病気がみえる消化器 第3版 プリント 他				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、筆記試験				

分野	専門	担当教員	佐藤 修		
実務経験のある教員の経験内容		救急救命士（栗原地域広域行政事務組合消防本部、栗原市消防本部）			
教育目標	各種疾患（小児、高齢者、妊産婦等を含む）の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
科目名	疾病救急Ⅲ		履修学年	1年	
細科目			授業方法	講義	
授業単位	1単位	授業時間	30時間（15コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
救急疾患で主要な内因性疾患に関する詳細な病態生理の知識を深め、症状から多様な疾病が考えられることを理解する。また、病態生理を基に適した観察方法、処置や重症度・緊急度判断の知識を身に着ける。					
授業の概要					
<p>5. 泌尿・生殖系疾患 P597～603</p> <p>6. 代謝・内分泌・栄養系疾患 P604～615</p> <p>7. 血液・免疫系疾患 P617～621</p>					
使用テキスト等	救急救命士標準テキスト 第10版 病気がみえる糖尿病・代謝・内分泌 第4班 プリント 他				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、筆記試験				

分野	専門	担当教員	佐藤 修		
実務経験のある教員の経験内容		救急救命士（栗原地域広域行政事務組合消防本部、栗原市消防本部）			
教育目標	各種疾患（小児、高齢者、妊産婦等を含む）の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
科目名	疾病救急Ⅳ		履修学年	1年	
細科目			授業方法	講義	
授業単位	1単位	授業時間	30時間（15コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
救急疾患で主要な内因性疾病に関する詳細な病態生理の知識を深め、症状から多様な疾病が考えられることを理解する。また、病態生理を基に適した観察方法、処置や重症度・緊急度判断の知識を身に着ける。					
授業の概要					
<p>8. 筋・骨格系疾患 P622～626</p> <p>9. 皮膚疾患 P627～629</p> <p>10. 眼・耳・鼻の疾患 P630～634</p> <p>11. 感染症 P635～643</p>					
使用テキスト等	救急救命士標準テキスト 第10版 病気がみえる感染症 第4版 プリント 他				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、筆記試験				

分野	専門	担当教員	日下 徹																								
実務経験のある教員の経験内容		救急救命士（一関市消防本部）																									
教育目標	外傷の受傷機転、発症機序、病態、症状、所見及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。																										
科目名	外傷 I		履修学年	1年																							
細科目			授業方法	講義																							
授業単位	3単位	授業時間	90時間（45コマ）	時間(分)／回	90分																						
授業のねらい																											
救急外傷疾患でに関する詳細な病態生理の知識を深める。病態知識を基に多様な外傷が考えられることを理解し、観察方法、処置や重症度・緊急度判断の知識を身に着ける。																											
授業の概要																											
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">1. 疫学と外傷システム</td> <td style="width: 30%;">P688～690</td> </tr> <tr> <td>2. 受傷機転</td> <td>P691～701</td> </tr> <tr> <td>3. 外傷の病態生理</td> <td>P702～707</td> </tr> <tr> <td>4. 外傷の現場活動</td> <td>P708～713</td> </tr> <tr> <td>5. 頭部外傷</td> <td>P715～721</td> </tr> <tr> <td>6. 顔面・頸部外傷</td> <td>P722～726</td> </tr> <tr> <td>7. 脊椎・脊髄外傷</td> <td>P727～732</td> </tr> <tr> <td>8. 胸部外傷</td> <td>P733～738</td> </tr> <tr> <td>9. 腹部外傷</td> <td>P739～742</td> </tr> <tr> <td>10. 四肢外傷</td> <td>P743～745</td> </tr> <tr> <td>11. 小児・高齢者・妊婦の外傷</td> <td>P755～759</td> </tr> </table>						1. 疫学と外傷システム	P688～690	2. 受傷機転	P691～701	3. 外傷の病態生理	P702～707	4. 外傷の現場活動	P708～713	5. 頭部外傷	P715～721	6. 顔面・頸部外傷	P722～726	7. 脊椎・脊髄外傷	P727～732	8. 胸部外傷	P733～738	9. 腹部外傷	P739～742	10. 四肢外傷	P743～745	11. 小児・高齢者・妊婦の外傷	P755～759
1. 疫学と外傷システム	P688～690																										
2. 受傷機転	P691～701																										
3. 外傷の病態生理	P702～707																										
4. 外傷の現場活動	P708～713																										
5. 頭部外傷	P715～721																										
6. 顔面・頸部外傷	P722～726																										
7. 脊椎・脊髄外傷	P727～732																										
8. 胸部外傷	P733～738																										
9. 腹部外傷	P739～742																										
10. 四肢外傷	P743～745																										
11. 小児・高齢者・妊婦の外傷	P755～759																										
使用テキスト等	救急救命士標準テキスト 第10版 プリント 他																										
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、筆記試験																										

分野	専門	担当教員	佐藤 修		
実務経験のある教員の経験内容		救急救命士（栗原地域広域行政事務組合消防本部、栗原市消防本部）			
教育目標	外傷の受傷機転、発症機序、病態、症状、所見及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
科目名	外傷Ⅱ		履修学年	1年	
細科目			授業方法	講義	
授業単位	1単位	授業時間	30時間（15コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
救急外傷疾患の中で特殊疾患の詳細な病態生理知識を深める。病態知識を基に観察方法、処置や重症度・緊急度判断の知識を身に着ける。					
授業の概要					
<p>13. 熱 傷 P760～765 14. 化学損傷 P766～771 15. 電撃症・雷撃症 P772～780 16. 縊頸・絞頸 P778～780 17. 刺咬症 P781～785</p>					
使用テキスト等	救急救命士標準テキスト 第10版 プリント 他				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、筆記試験				

分野	専門	担当教員	中里 重高		
実務経験のある教員の経験内容		救急救命士（両磐地区消防組合消防本部、一関市消防本部）			
教育目標	環境因子、中毒物質、放射線等による障害の発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
科目名	環境障害と中毒	履修学年	1年		
細科目		授業方法	講義		
授業単位	1単位	授業時間	30時間（15コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
<p>病院前救護現場で遭遇する環境を基に、これらの環境が及ぼす身体的影響（病態生理）から症状や観察方法、処置、重症度・緊急度判断を理解させる。</p> <p>また、使用頻度の多い薬物中毒物質を知り、これらの病態生理、症状、観察方法、処置や重症度・緊急度判断も合わせて理解させる。</p>					
授業の概要					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 中毒総論 P788～795 2. 中毒各論 P796～806 3. 異物 P808～811 4. 溺水 P812～813 5. 熱中症 P815～820 6. 偶発性低体温症 P821～823 7. 放射線障害 P824～832 8. その他の環境障害 P833～839 					
使用テキスト等	救急救命士標準テキスト 第10版 プリント 他				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、筆記試験				

分野	専門	担当教員	佐藤 修		
実務経験のある教員の経験内容		救急救命士（栗原地域広域行政事務組合消防本部、栗原市消防本部）			
教育目標	習得した知識を病院前救護において的確かつ安全に適応できる実践能力を身につけ、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な態度を習得し、医師とともに救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。				
科目名	応急処置 I		履修学年	1年	
細科目	心肺蘇生法		授業方法	実習	
授業単位	2単位	授業時間	90時間（45コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
救急救命士となる上での確かな CPR が実践できるようその技術を習得する。また、応急手当についての知識と技術を深める。					
授業の概要					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 訓練礼式 2. 三角巾法 3. 止血法 4. 搬送法 5. 回復体位 6. 怪我及びやけどに対する応急手当 7. 成人、小児及び乳児の BLS（一般市民向け） <ol style="list-style-type: none"> (1) 安全確保（二次災害や感染） (2) 心肺停止の判断（意識、呼吸の評価） (3) 用手気道確保法（頭部後屈顎先拳上法） (4) 人工呼吸 (5) 異物除去（背部叩打法、ハイムリック） (6) 胸骨圧迫 (7) AED 8. 成人、小児及び乳児の BLS（医療従事者向け） <ol style="list-style-type: none"> (1) 用手気道確保法（下顎拳上法、トリプルエアウェイマニユアバー） (2) BVM（バッグ・バルブ・マスク）による人工換気と補助換気（1人法、2人法） (3) 救急隊員の一次救命処置（BVMと胸骨圧迫の組み合わせ） 					
使用テキスト等	救急救命士標準テキスト 第10版 救急処置スキルブック 救急処置スキルマニュアル 救急資器材マニュアル				
評価の方法	授業態度、効果測定				

分野	専門	担当教員	佐藤 修		
実務経験のある教員の経験内容		救急救命士（栗原地域広域行政事務組合消防本部、栗原市消防本部）			
教育目標	習得した知識を病院前救護において的確かつ安全に適応できる実践能力を身につけ、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な態度を習得し、医師とともに救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。				
科目名	応急処置Ⅱ		履修学年	1年	
細科目	資器材取り扱い、一般市民向けBLS指導技法		授業方法	実習	
授業単位	2単位	授業時間	90時間（45コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
救急隊で使用する資器材について、操作方法を学び観察要領を理解、習得する。					
授業の概要					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 観察法 （環境観察、傷病者外見観察、意識レベル評価（JCS・GCS・ECS）、バイタルサイン、傷病者全身観察） 2. 聴診（気管・気管支、肺、心臓、腹部） 2. 瞳孔観察（瞳孔径、対光反射） 3. 血圧測定 4. 酸素飽和度測定（パルスオキシメータ） 5. 口腔内の吸引操作と清拭操作 6. 異物除去（喉頭鏡とマギール鉗子） 7. 経鼻エアウェイ 8. 酸素投与 9. 半自動式除細動器 10. 十二誘導心電図 11. 体位管理 12. 搬送器材（メインストレッチャー、サブストレッチャー、スクープストレッチャー） 13. ネックカラー 14. 全脊柱固定 					
使用テキスト等	救急救命士標準テキスト 第10版 救急処置スキルブック 救急処置スキルマニュアル プリント				
評価の方法	授業態度、効果測定				

分野	専門	担当教員	菅原 道真		
実務経験のある教員の経験内容		救急救命士（一関市消防本部）			
教育目標	習得した知識を病院前救護において的確かつ安全に適応できる実践能力を身につけ、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な態度を習得し、医師とともに救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。				
科目名	救急救命処置 I		履修学年	1年	
細科目	基礎的救命処置		授業方法	実習	
授業単位	3単位	授業時間	135時間（68コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
<p>傷病者に対し安全かつ迅速に資器材を取り付け、バイタル観察及びモニタリングし、悪化の防止、苦痛の軽減をしつつ救命できる活動体制の構築を図る。</p> <p>特定行為の中でも基本となる器具を用いた気道確保（挿管除く）、静脈路確保と薬剤投与の手技を確固たるものとし、適応や禁忌を理解を習得させる。</p>					
授業の概要					
<p>1. 基礎的総合訓練（標準課程レベルで対応可能なシナリオを与えての隊活動）</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 接遇およびインフォームドコンセント (2) 意識レベルとバイタルサインの観察・評価 (3) 環境や傷病者状態に適した体位管理と搬送方法 (4) 異物除去（吸引器、喉頭鏡、マギール鉗子） (5) 気道確保（下顎挙上法、経鼻エアウェイ） (6) BVMによる換気 (6) 効果的かつ確実な心肺蘇生法の習得 (7) 心電図波形に対する観察・判断・処置（Sinus、VF、pulselessVT、PEA、Asystole） <p>2. 特定行為を含めた総合訓練</p> <p>器具を用いた気道確保（コンビチューブ、ラリングアルチューブ、ラリングアルマスク） 静脈路確保・ショック患者に対する輸液・血糖値測定・薬剤投与（アドレナリン、ブドウ糖）</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 感染防護 (2) 清潔操作 (3) インフォームド・コンセント実施要領 (4) 指示要請実施要領 (5) 救命士報告実施要領 (6) シミュレーション 					
使用テキスト等	救急救命士標準テキスト 第10版 救急処置スキルブック 救急現場活動シリーズ特定行為 プリント				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、効果測定				

分野	専門	担当教員	日下 徹		
実務経験のある教員の経験内容		救急救命士（一関市消防本部）			
教育目標	習得した知識を病院前救護において的確かつ安全に適応できる実践能力を身につけ、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な態度を習得し、医師とともに救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。				
科目名	救急外傷処置 I		履修学年	1年	
細科目	J P T E C、災害訓練		授業方法	実習	
授業単位	1単位	授業時間	45時間（23コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
外傷傷病者（一般外傷、熱傷）における処置法を理解する。また、極めて短時間で知識的病態に陥りやすい外傷において、PTD（防ぎえた外傷死）を減少させるために国内で標準化されたプログラムであるJ P T E C手技（状況評価から全脊柱固定まで）を理解し習得する。					
授業の概要					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 三角巾による被覆包帯 2. 止血法（直接・間接圧迫止血法、止血帯） 3. 骨折肢整復法 4. シーネ固定 5. ショックパンツ 6. マジックギブス 7. 全脊柱固定（仰臥位、腹臥位） 8. 熱傷傷病者における観察、判断、処置、評価法 9. J P T E C手技 <ol style="list-style-type: none"> （1）状況評価（感染防御、資器材確認、環境観察、応援要請、受傷機転の把握） （2）初期評価（頸椎保護、気道確保、意識の確認、呼吸・循環評価、応急処置） （3）全身観察 （4）重点観察 					
使用テキスト等	救急救命士標準テキスト 第10版 救急処置スキルブック 救急処置スキルマスター J P T E Cガイドブック プリント				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、効果測定				

分野	基礎	担当教員	菅原 邦久		
実務経験のある教員の経験内容					
教育目標	医療従事者として必要な科学的思考および教養を身につける。生命に関わる科学の基礎を理解し、疫学的な考察力を培うとともに情報化・デジタル化社会に対応できる知識を習得する。				
科目名	統計学		履修学年	2年	
細科目			授業方法	講義	
授業単位	1単位	授業時間	30時間(15コマ)	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
医療従事者として必要な科学的思考および教養を身につける。統計の基礎を学び原理・原則の理解を深め、積極的に医療統計・救急統計などに応用できることを目的とする。					
授業の概要					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 個数の処理 数え上げの原則 場合の数 2. 確率と統計 確率(その基本的な法則) 独立的な試行と確率 統計資料の整理 統計的な推測 3. 数と式 数、式 等式と不等式 <p style="text-align: center;">等</p>					
使用テキスト等	担当教員により配布されるプリント				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、筆記試験				

分野	基礎	担当教員	菅原 邦久		
実務経験のある教員の経験内容					
教育目標	医療従事者として必要な科学的思考および教養を身につける。生命に関わる科学の基礎を理解し、疫学的な考察力を培うとともに情報化・デジタル化社会に対応できる知識を習得する。				
科目名	幾何学		履修学年	2年	
細科目			授業方法	講義	
授業単位	1単位	授業時間	30時間（15コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
医療従事者として必要な科学的思考および教養を身につける。その上で必要となる空間把握能力や数的処理などの向上を目的とする。					
授業の概要					
<p>科学的思考をスピーディーにする技術の習得。 与えられたデータを基に、グラフ、図形化や割合、指数、比率、構成比などを読み解く力を向上させる。 公務員試験などでも求められる学力の確認、向上を図る。</p>					
使用テキスト等	担当教員により配布されるプリント				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、筆記試験				

分野	基礎	担当教員	菅原 邦久		
実務経験のある教員の経験内容					
教育目標	医療従事者として必要な科学的思考および教養を身につける。生命に関わる科学の基礎を理解し、疫学的な考察力を培うとともに情報化・デジタル化社会に対応できる知識を習得する。				
科目名	物理学		履修学年	2年	
細科目			授業方法	講義	
授業単位	1単位	授業時間	30時間（15コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
医療従事者として必要な科学的思考および教養を身につける。力学や電気工学などの基本知識の習得を目的とする。					
授業の概要					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 直線運動 <ul style="list-style-type: none"> 速さ 直線運動をする物体の位置と速度 速度と変位 加速度 等加速度直線運動 重力加速度 2. 運動の法則 <ul style="list-style-type: none"> 速度と加速度 ニュートンの運動の法則 直線運動での運動の法則 地球の重力 運動方程式のたて方と解き方 放物運動 3. 電流 <ul style="list-style-type: none"> 電流 起電力 オームの法則 ほか 					
使用テキスト等	担当教員により配布されるプリント				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、筆記試験				

分野	基礎	担当教員	菅原 邦久		
実務経験のある教員の経験内容					
教育目標	人間性を磨き、柔軟で客観的な判断力を培い、主体的な行動力を身につける。				
科目名	論理学		履修学年	2年	
細科目			授業方法	講義	
授業単位	1単位	授業時間	30時間（15コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
人間性を磨き、柔軟で客観的な判断力を培い、主体的な行動力を身につける。そのために必要となる理路整然とした表現ができるよう訓練し、将来的に役立つ論理的思考を養う。					
授業の概要					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代文の要旨把握、空間補充、文章整序 2. 論理的思考法の練習 3. 三段論法の熟達 4. 問題演習 					
使用テキスト等	・担当教員により配布されるプリント				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、筆記試験				

分野	専門基礎	担当教員	菅原 実		
実務経験のある教員の経験内容		救急救命士（両磐地区消防組合消防本部、一関市消防本部）			
教育目標	公衆衛生の基本的考えを理解し、国民の健康および地域・環境保健、医療及び福祉についての知識を習得する。				
科目名	公衆衛生		履修学年	2年	
細科目			授業方法	講義	
授業単位	1単位	授業時間	30時間（15コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
救急救命士が現場で活動する上で必要な保健医療制度について、知識を深める。					
授業の概要					
<p>1 保健医療制度の仕組みと現状 P20～39</p>					
使用テキスト等	救急救命士標準テキスト 第10版 プリント 他				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、筆記試験				

分野	専門基礎	担当教員	菅原 実		
実務経験のある教員の経験内容		救急救命士（両磐地区消防組合消防本部、一関市消防本部）			
教育目標	公衆衛生の基本的考えを理解し、国民の健康および地域・環境保健、医療及び福祉についての知識を習得する。				
科目名	社会保障・社会福祉		履修学年	2年	
細科目			授業方法	講義	
授業単位	1単位	授業時間	30時間（15コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
救急救命士が現場で活動する上で必要な社会保障・社会福祉と保健制度について、知識を深める。					
授業の概要					
使用テキスト等	救急救命士標準テキスト 第10版 プリント 他				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、筆記試験				

分野	専門	担当教員	安藤 美和		
実務経験のある教員の経験内容		認定看護師			
教育目標	生命倫理と医の倫理（インフォームドコンセントを含む）の基本的考え方を理解する。地域における救急救命士の役割を理解し、メディカルコントロール体制化における救急現場、搬送課程における救急医療及び災害医療についての知識を系統的に習得する。また、救急救命処置に係る医療事故対策について理解する。				
科目名	検査		履修学年	2年	
細科目			授業方法	講義	
授業単位	1単位	授業時間	30時間（15コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
病院内で行われている検査方法や言語の知識を深める。また、救急救命士が現場で活動するにあたり、必要な感染防御についても知識として習得する。					
授業の概要					
<p>1. 検査 P211～214</p> <p>2. 感染対策 P282～293</p>					
使用テキスト等	救急救命士標準テキスト 第10版 看護に役立つ検査辞典				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、筆記試験				

分野	専門	担当教員	中里 重高		
実務経験のある教員の経験内容		救急救命士（両磐地区消防組合消防本部、一関市消防本部）			
教育目標	各種疾患（小児、高齢者、妊産婦等を含む）の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
科目名	疾病救急V		履修学年	2年	
細科目			授業方法	講義	
授業単位	2単位	授業時間	60時間（30コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
救急疾患で特殊（小児、高齢者、妊産婦など）な内因性疾病に関する詳細な病態生理の知識を深め、成人との相違点を理解する。また、症状から多様な疾病が考えられることを理解し、病態生理を基に適した観察方法、処置や重症度・緊急度判断の知識を身に着ける。					
授業の概要					
<p>12. 小児に特有な疾患 P644～654</p> <p>13. 高齢者に特有な疾患 P658～664</p> <p>14. 妊娠・分娩と救急疾患 P665～675</p> <p>15. 精神障害 P676～686</p>					
使用テキスト等	救急救命士標準テキスト 10版				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、筆記試験				

分野	専門	担当教員	菅原 実		
実務経験のある教員の経験内容		救急救命士（両磐地区消防組合消防本部、一関市消防本部）			
教育目標	習得した知識を病院前救護において的確かつ安全に適応できる実践能力を身につけ、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な態度を習得し、医師とともに救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。				
科目名	応急処置Ⅲ		履修学年	2年	
細科目	一般市民向け指導技法及び、口頭指導		授業方法	実習	
授業単位	1単位	授業時間	45時間（23コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
<p>学生が指導する立場で市民向けのBLSの講義・口頭指導を行うことで、人に教える難しさを知り、また現場に出た際に必ず行うであろうBLS講習の一助となることを目的とする。</p>					
授業の概要					
<ol style="list-style-type: none"> 1. グループディスカッション 2. グループごとでの発表、展示 3. 一般市民へBLS講習実施 4. 反省ミーティング 5. 改善方法の模索 					
使用テキスト等	救急救命士標準テキスト 第10版 応急手当標準テキスト プリント等				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、効果測定				

分野	専門	担当教員	岸田 全人		
実務経験のある教員の経験内容		救急救命士（埼玉医科大学国際医療センター）			
教育目標	習得した知識を病院前救護において的確かつ安全に適応できる実践能力を身につけ、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な態度を習得し、医師とともに救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。				
科目名	救急救命処置Ⅱ	履修学年	2年		
細科目	気管挿管、エピペン、特定行為	授業方法	実習		
授業単位	2単位	授業時間	90時間（45コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
特定行為においてもより慎重な操作を的確に実践できる能力を身につけるとともに、気管挿管の適応や禁忌を理解した上での習得を図る。					
授業の概要					
<p>1. 気管挿管</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 気管挿管に必要な知識（解剖学知識、適応と禁忌、合併症） (2) 気管挿管の適応・禁忌 (3) 感染防護 (4) 清潔操作 (5) インフォームド・コンセント実施要領 (6) 指示要請実施要領 (7) 救命士報告実施要領 (8) 気管挿管の手技手順 (9) 気管挿管後の換気要領 <p>2. エピペン</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) エピペンに必要な知識（処置の位置づけ、適応と禁忌、合併症） (3) 感染防護 (4) 清潔操作 (5) インフォームド・コンセント実施要領 (6) 助言要請実施要領 (7) 救命士報告実施要領 (8) エピペンの手技手順 <p>3. 特定行為（器具を用いた気道確保、気管挿管、静脈路確保、輸液、薬剤投与）を組み合わせたシミュレーション</p>					
使用テキスト等	救急救命士標準テキスト 第10版 救急処置スキルブック 救急現場活動シリーズ特定行為 プリント等				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、効果測定				

分野	専門	担当教員	菅原 実		
実務経験のある教員の経験内容		救急救命士（両磐地区消防組合消防本部、一関市消防本部）			
教育目標	習得した知識を病院前救護において的確かつ安全に適応できる実践能力を身につけ、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な態度を習得し、医師とともに救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。				
科目名	救急外傷処置Ⅱ		履修学年	2年	
細科目	J P T E C		授業方法	実習	
授業単位	1単位	授業時間	45時間（23コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
<p>極めて短時間で致命的病態に陥りやすい外傷において、PTD（防ぎえた外傷死）を減少させるために国内で標準化されたプログラムであるJPTEC手技を全て理解し習得する。 また、外部で開催されているJPTECプロバイダーコースと同等の手技習得を目指す。</p>					
授業の概要					
<p>1. 重症外傷傷病者救護活動（JPTEC）</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 状況評価（感染防御、資器材、環境観察、応援要請、受傷機転の把握） (2) 初期評価（頸椎保護、気道確保、意識の確認、呼吸・循環の評価、応急処置） (3) 全身観察 (4) 重点観察 (5) 車内活動 (6) 情報聴取（GUMBA、MIST、SAMPLE等） (7) 詳細観察 (8) 継続観察 					
使用テキスト等	救急救命士標準テキスト 第10版 救急処置スキルブック JPTECガイドブック プリント				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、効果測定				

分野	専門	担当教員	菅原 実		
実務経験のある教員の経験内容		救急救命士（両警地区消防組合消防本部、一関市消防本部）			
教育目標	習得した知識を病院前救護において的確かつ安全に適応できる実践能力を身につけ、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な態度を習得し、医師とともに救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。				
科目名	総合演習		履修学年	2年	
細科目			授業方法	実習	
授業単位	4単位	授業時間	180時間（90コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
<p>習得した技術と知識を活用し、より円滑な隊連携を図り、総合的な救急隊活動（判断、判断、評価、処置、病院選定）が実施出来るよう養成する。</p> <p>また、ICLSやJPTECプロバイダーコースに参加し、技術習得と併せて資格習得後の継続教育の必要性を理解する。</p>					
授業の概要					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義、実習で学んできた知識・技術・連携を図る 病院前救護シナリオ想定訓練（心肺停止、内因性、外因性） 2. JPTECプロバイダーコースへの参加 3. 病院内で行われている心肺蘇生プロトコルを理解する 病院内シナリオ想定訓練（ICLS） 4. ICLSプロバイダーコースへの参加 5. 病院前救護に関する講演会 					
使用テキスト等	救急救命士標準テキスト 第10版 救急処置スキルブック JPTECガイドブック				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、効果測定				

分野	専門	担当教員	菅原 実		
実務経験のある教員の経験内容		救急救命士（両磐地区消防組合消防本部、一関市消防本部）			
教育目標	習得した知識を病院前救護において的確かつ安全に適応できる実践能力を身につけ、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な態度を習得し、医師とともに救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。				
科目名	救急用自動車同乗実習		履修学年	2年	
細科目			授業方法	実習	
授業単位	4単位	授業時間	180時間（90コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
<p>実際の救急活動に同行することや消防業務の一日の流れを体感することで、自分の進むべき道を明確なものとし、今後の学習に活かすことを目的とする。</p>					
授業の概要					
<p>事前に同乗実習へ臨む心構え、礼儀、身だしなみ等を確認し、クリアした学生を同乗実習へ派遣するものとする。各消防本部において、同乗実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（学内、学外オリエンテーション） 2. 実習訓練用救急自動車を利用しての想定訓練（車内活動訓練） 					
使用テキスト等	救急救命士標準テキスト 第10版				
評価の方法	活動記録、レポート、学科実習指導者の評価				

分野		担当教員	千葉 卓修		
実務経験のある教員の経験内容		医師			
教育目標	基礎医学系、臨床医学系、救急医学概論系でそれぞれの統括講義を行う。 反復教育を行い、知識の再確認と定着を図ることを目的とする。				
科目名	国家試験対策	履修学年	2年		
細科目		授業方法	実習		
授業単位	3単位	授業時間	90時間(45コマ)	時間(分)/回	90分
授業のねらい					
国家試験形式のテストと解説授業を行う。国家試験合格に向けた実力を熟成する。					
授業の概要					
<p>1. 国家試験に向けた模擬試験</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 人体の構造と機能 (2) 疾患の成り立ちと回復の過程 (3) 救急医学概論 (4) 救急症候・病態生理 (5) 疾病救急医学 (6) 外傷救急医学 (7) 環境障害・急性中毒 <p>2. 模擬試験解説</p>					
使用テキスト等	救急救命士標準テキスト 第10版 模擬問題 プリント				
評価の方法	出席態度、授業態度、レポート、筆記試験				

分野	専門	担当教員	各医療機関の担当医師		
教育目標	習得した知識を病院前救護において的確かつ安全に適応できる実践能力を身につけ、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な態度を習得し、医師とともに救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。				
実務経験のある教員の経験内容					
科目名	臨床実習（病院実習）		履修学年	2年	
細科目					
授業単位	5単位	授業時間	225時間（113コマ）	時間(分)／回	90分
授業のねらい					
救急医療機関において、習得した知識を的確かつ安全に応用できる実践能力を身につけるとともに、メディカルコントロールの重要性を認識し、医師・看護師とともに救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。					
授業の概要					
1人あたり160時間以上の病院実習を行う。（臨床実習施設における実習細目）					
使用テキスト等	救急救命士標準テキスト 第10版				
評価の方法	実習レポート、実習指導医師の評価、学科実習指導者の評価				